

Japanese Society for Day Care Treatment
日本デイケア学会

NEWS No.21

日本デイケア学会広報委員会
2010年7月20日 発行
日本デイケア学会事務局
東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F
(有) エム・シー・ミュージズ内
TEL: 03 - 3813 - 6368
FAX: 03 - 3813 - 6368
E-mail: info@daycare.gr.jp
http://www.daycare.gr.jp

秋のみちのく仙台へようこそ

「あらためて、デイケア・デイサービスの意義を問う」

日本デイケア学会第15回年次大会
大会長 浅野 弘毅 / 副大会長 原 敬造

日本デイケア学会第15回年次大会を、本年9月17日(金)・18日(土)の2日間、仙台(江陽グランドホテル)で開催致します。

今日、精神科のデイケアにしる高齢者のデイケア・デイサービスにしる、数のうえでも、対象とする疾患においても大きな拡がりをみせています。しかし、法と制度のめまぐるしい変化のなかで、ともすると方向性が見失われがちになっているのも事実です。仙台大会では、利用者に喜ばれ、利用者の社会参加に役立てることのできるケアとサービスのあり方について今一度原点に立ち返って討論をし、全国の皆様と交流を図りながら学びあいたいと考えております。

初日の特別講演には「支えあうということ」と題して、大阪大学総長で哲学者の鷲田清一先生をお招きしました。また、教育講演は東北福祉大学大学院教授・東北大学名誉教授の佐藤光源先生と高齢者総合福祉施設アザレアנסなだ総合施設長の宮島渡先生にお願いしました。それぞれ「病いと人-精神医療・福祉の視点から-」、「多機能性からみるデイケア・デイサービスのあり方」という題でお話をいただきます。

精神科領域のシンポジウムは、「その人らしく暮らす-精神科デイケアができること-」、また2日目の高齢者領域のシンポジウムは「通うこと 集うこと-高齢者デイケア・デイサービスのこれから-」を予定しています。

2日目のワークショップは、「地域生活をフルに楽しむ-役に立つSSTの実際-」(前田ケイ ルーテル学院大学名誉教授)と「こころが踊る、身体もはずむ-高齢者のダンスセラピー-」(大沼幸子 東北福祉大学健康科学部准教授)の2つが計画されています。

一般演題は84題の応募をいただきましたので分科会を14用意しました。また、3つのランチオンセミナー(染矢俊幸 新潟大学大学院教授、鳥羽研二 国立長寿医療センター病院 病院長、肥田裕久 ひだクリニック院長ほか)も予定しています。

さらに、前日の16日(木)の午後には、会場の近くで、学会主催の研修会が計画されています。松永宏子中部学院大学教授による「集団(グループ)の力を活用したデイケア実践」と内出幸美社会福祉法人典人会理事・総所長による「認知症高齢者の地域生活支援(デイサービス)の実際」です。

大会終了後の19日(日)の午前には、3コースに分かれての施設見学会を開催します。

仙台大会では盛りだくさんのプログラムを用意して、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。大会終了後は、みちのく仙台の秋の観光もあわせてお楽しみいただき楽しい思い出にしていただければ幸いです。

2010年7月吉日

「その人らしく暮らすー精神科デイケアができることー」の趣旨

精神科デイケア（以下、デイケア）は精神障害者の社会参加と地域生活を支える重要な拠点とされてきました。社会保険診療報酬で、デイケアが初めて点数化されたのは 1974（昭和 49）年のことですが、施設基準が厳しいうえに診療報酬も低かったため、実施施設は公的機関と精神科病院に限られていました。

1988（昭和 63）年に、小規模デイケアが認可されるに及んで診療所デイケアが普及するようになりました。1994（平成 6）年に、デイナイトケアが診療報酬で認められています。さらに、2006（平成 18）年には、精神科ショートケアが診療報酬で点数化されました。

数のうえでも、対象とする疾患においてもデイケアは大きな拡がりを見せています。一方で、精神障害者を地域で支える方策が多様化するなかでデイケアの意義があらためて問われる時代にも入りました。

「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」（今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会報告書、平成 21 年 9 月）は、デイケアの今後の方向性を 3 点に整理しています。①急性期や回復期に、適切なアセスメント

に基づき、認知行動療法、心理教育等を一定期間重点的に行うなど、対象・利用期間・実施内容を明確にして医療としての機能を強化したデイ・ケア等の整備を図るべきである。②現在のデイ・ケア等は、これまでの地域におけるサービスの供給状況の中で、生活支援としても地域移行における一定の機能を果たしてきていると考えられるが、医療資源をより重症な患者に重点的に活用する観点からは、対象者・利用目的・実施内容が福祉サービスと重複しているデイ・ケア等については、その利用者の選択の下で障害福祉サービスの利用を促していけるよう、障害福祉サービスの充実等を図っていくべきである。③利用者の地域生活における自立をより促す観点から、デイ・ケア等の、長期にわたる頻回な利用や長時間の利用については、それが漫然としたものにならないように促す方策を検討すべきである。

今日、法と制度のめまぐるしい変化のなかで、ともするとデイケアの方向性が見失われがちになっています。本シンポジウムでは、今一度原点に立ち返ってデイケアの意義を問い直してみたいと思います。

「通うこと 集うこと」

ー高齢者デイケア・デイサービスのこれからーの趣旨

高齢者を対象とした通所系サービス数をみますと、現在、デイケアが 37,859 ケ所、デイサービスが 25,775 ケ所、認知症対応型通所介護が 3,715 ケ所、小規模多機能型居宅介護が 2,323 ケ所となっています（2010 年 2 月 28 日 WAMNET）。

通所系サービスの数が増加することによって、住宅街には多くの送迎車が見受けられるようになり、利用者の多い事業所、利用者が集まらない事業所との格差が広がる傾向にあるとも言われています。

そういう状況のなかで、従来のデイケア・デイサービスの形態だけでなく、多様な形態をもつデイケア・デ

イサービスがみられるようになってきました。

重度の利用者に対応したもの、短時間のリハビリテーションを目的としたもの、若年性のアルツハイマー病の認知症や高次脳機能障害の利用者に対応したもの、機能別に利用者分けて対応しているもの、小規模多機能型居宅介護などなどです。

本シンポジウムでは多様な形態をもつ高齢者のデイケア・デイサービスの先駆的な実践報告を受けて、高齢者人口が最大となり、ニーズが多様化すると考えられている 2025 年のデイケア・デイサービスのあり方を展望してみたいと思います。

日本デイケア学会 第15回年次大会仙台大会のご案内

大会テーマ 「あらためて、デイケア・デイサービスの意義を問う」

大会長 浅野 弘毅 (東北福祉大学せんだんホスピタル院長)

大会URL <http://www.daycare15.com/>

会 期 平成22年9月16日(木)～19日(日)

研修会：9月16日(木) 学術大会：9月17日(金) 18日(土) 見学会：9月19日(日)

プログラム

学術大会

参加費

日 時：平成22年9月17日(金)・18日(土)
会 場：江陽グランドホテル

会 員	事前登録	7,000円
	当 日	8,000円
一 般	事前登録	8,000円
	当 日	9,000円
当事者・家族・学生		3,000円

1. 特別講演 「支えあうということ」

鷺田 清一(哲学者・大阪大学総長)

2. 教育講演 1) 「病いと人—精神医療・福祉の視点から—」

佐藤 光源(東北福祉大学大学院教授・東北大学名誉教授)

2) 「多機能性からみるデイケア・デイサービスのあり方」

宮島 渡(高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ総合施設長)

3. 大会長講演 「精神科デイケアのエッセンス」

浅野 弘毅(東北福祉大学せんだんホスピタル院長)

4. シンポジウム 1) 「その人らしく暮らす—精神科デイケアができること—」

座 長／池淵 恵美(帝京大学医学部教授)

シンポジスト／関 健(城西病院 理事長)

福智 寿彦(すすかけクリニック院長)

伊澤 雄一(全国精神障害地域生活支援事業協議会代表)

梁田 英麿(東北福祉大学せんだんホスピタル S-ACT)

特別発言／福田 祐典(厚生労働省)

2) 「通うこと 集うこと」—高齢者デイケア・デイサービスのこれから—

座 長／岩尾 貢(特別養護老人ホームサンライフたきの里施設長)

シンポジスト／阪井由佳子(特定非営利法人にぎやか理事長)

中山 康子(在宅緩和ケア支援センター虹代表)

中島 鈴美(在宅リハビリテーションセンター桜新町 理学療法士)

井上 博文(小規模多機能型居宅介護シンフォニー将監)

高橋 幸男(エスポアール出雲クリニック理事長)

5. ワークショップ 1) 「地域生活をフルに楽しもう—役に立つSSTの実際—」

前田 ケイ(ルーテル学院大学名誉教授)

2) 「こころが踊る、身体もはずむ—高齢者のダンスセラピー—」

大沼 幸子(東北福祉大学健康科学部准教授)

6. 一般演題 1 4分科会 8 4題

1) 「うつとリワーク」 座長：五十嵐良雄(メディカルケア虎ノ門) 2) 「心理教育」 栗原 毅(中野区鷺宮保健福祉センター)

3) 「高齢者①」 土井 勝幸(介護老人保健施設せんだんの丘) 4) 「高齢者②」 小野寺敦志(国際医療福祉大学大学院)

5) 「プログラム①」 中野 英子(札幌学院大学) 6) 「プログラム②」 香山 明美(宮城県立精神医療センター)

7) 「就労支援①」 斎藤 敏靖(東京国際大学) 8) 「就労支援②」 長谷川直美(デイケアクリニックほっとステーション)

9) 「デイケアのあり方」 岩下 寛(桜ヶ丘記念病院) 10) 「健康管理」 林 みづ穂(仙台市精神保健福祉総合センター)

- 11) 「子ども・思春期」高林 健示(クボタ心理福祉研究所) 12) 「ピアサポート」古屋 龍太(日本社会事業大学)
 13) 「導入・転帰」佐々木裕光(福岡病院) 14) 「地域生活」福地 成(東北福祉大学せんだんホスピタル)

7. ランチョンセミナー 1) 「**デイケア職員のメンタルヘルス ―うつ病を中心に―**」
 演 者/染矢 俊幸(新潟大学大学院教授)
 座 長/松岡 洋夫(東北大学大学院教授)
 シェリング・ブラウ株式会社協賛
- 2) 「**デイケアのアクティビティを上げる為に - 新規抗精神病薬の可能性 -**」
 演 者/肥田 裕久(ひだクリニック院長)
 木村 尚美(ひだクリニック副院長)
 座 長/宮城 秀晃(宮城クリニック院長)
 ヤンセンファーマ株式会社協賛
- 3) 「**認知症の包括的アプローチ**」
 演 者/鳥羽 研二(国立長寿医療研究センター病院 病院長)
 座 長/西村 良二(福岡大学医学部精神医学教授)
 エーザイ株式会社協賛

8. 企業展示 1) ヤンセンファーマ株式会社 2) 中央法規出版株式会社
 3) アイエ医書センター 4) 株式会社メルシー
 5) 株式会社サンクフルハート 6) アトリエ. AKIKO

9. 懇親会 日時：平成22年9月17日(金) 18:00～
 会場：江陽グランドホテル 鳳凰の間 参加費：5000円

研修会

日 時：平成22年9月16日(木) 14:30～17:30
 会 場：ハーネル仙台 参加費：3000円
 研修会1 「**集団(グループ)の力を活用したデイケア実践**」
 松永 宏子(中部学院大学教授)
 研修会2 「**認知症高齢者の地域生活支援(デイサービス)の実際**」
 内出 幸美(社会福祉法人典人会理事・総所長)

施設見学会

日 時：平成22年9月19日(日) 10:00～12:00
 会 場：見学会場現地集合 参加費：1000円
 ※事前申し込み定員制 各コース20名(先着順 大会HPより申し込み)

- Aコース：原クリニック・仙台市精神保健福祉総合センター(はあとぼーと仙台)(精神科デイケア 成人)
 Bコース：東北福祉大学せんだんホスピタル(精神科デイケア 児童思春期)
 Cコース：せんだんの丘(介護老人保健施設 デイサービス)

本大会および研修会は、日本精神神経学会精神科専門医制度における研修ポイント取得対象となります。

会期	C群取得単位
2時間未満	10点
2時間以上～4時間未満	20点
4時間以上	30点

日本デイケア学会は、取得単位C群となっていますので、会期が合計で4時間以上の場合、取得単位30点となりますが、ポイントを取得するには原則として会期の7割以上の参加が必要です。部分的なご参加ではポイントに加算されませんので、ご留意ください。

日程表

デイケア学会1日目 平成22年9月17日(金)

	5F 鳳凰の間	4F 翡翠の間	4F 銀河の間	4F 真珠の間	4F 琥珀の間
8:00～	受付				
9:00～	開会式				9:00～18:00 企業出展会場
9:10～	大会長講演 「精神科デイケアのエシックス」 浅野弘毅				
10:00～	休憩				
10:10～	教育講演1 「病いと人ー精神医療・福祉の視点からー」 佐藤光源				
11:00～	休憩				
11:10～	教育講演2 「多機能性からみるデイケア・テササービスのあり方」 宮島 渡				
12:00～	昼食休憩	12:10～13:00 ランチョンセミナー1 「デイケア職員のメンタルヘルス」 ーうつ病を中心にー 梁矢俊幸	12:10～13:00 ランチョンセミナー2 「デイケアのアクティビティを上げる為に」 ー新規抗精神病薬の可能性ー 肥田裕久・木村尚美	11:45～13:00 理事・評議員会	
13:10～	特別講演 「支えあうということ」 鷲田清一				
14:00～	休憩				
14:10～	シンポジウム1 「その人らしく暮らす」 ー精神科デイケアができることー 座長 池淵恵美 シンポニスト 関 健、福智寿彦 伊澤雄一、梁田英麿 特別発言 福田祐典	14:10～15:25 一般演題1 「うつとリワーク」座長:五十嵐良雄 5題 休憩 15:35～17:20 一般演題2 「心理教育」栗原 毅 7題	14:10～15:40 一般演題3 「高齢者①」座長:土井勝幸 6題 休憩 15:50～17:20 一般演題4 「高齢者②」座長:小野寺敦志 6題 休憩 17:30～18:00 総会		
18:00～ ～20:00	懇親会				

デイケア学会2日目 平成22年9月18日(土)

	5F 天平の間	4F 翡翠の間	4F 銀河の間	4F 真珠の間	4F 琥珀の間
		9:00～10:30 一般演題5 「プログラム①」座長:中野英子 6題 休憩	9:00～12:10 シンポジウム2 「通うこと 集うこと」 ー高齢者デイケア・テササービスのこれからー 座長 岩尾 貴 シンポニスト 阪井由佳子 中山康子 中島鈴美 井上博文 高橋幸男	9:00～10:30 一般演題11 「子ども・思春期」座長:高林健示 6題 休憩	9:00～16:30 企業出展会場
		10:40～12:10 一般演題6 「プログラム②」座長:香山明美 6題 休憩		10:40～12:10 一般演題12 「ピアサポート」座長:古屋龍太 6題	
		12:20～13:10 ランチョンセミナー 「認知症の包括的アプローチ」鳥羽研二 休憩	昼食休憩	昼食休憩	
13:20～ ～14:50	ワークショップ1 「地域生活をフルに楽しもう」 ー役に立つSSTの実際ー 前田ケイ 休憩	13:20～14:50 一般演題7 「就労支援①」座長:斎藤敏晴 6題 休憩	13:20～14:50 一般演題9 「デイケアのあり方」座長:岩下 覚 6題 休憩	13:20～14:50 一般演題13 「導入・転帰」座長:佐々木裕光 6題 休憩	
15:00～ ～16:30	ワークショップ2 「こころが踊る、身体もはすむ」 ー高齢者のダンスセラピーー 大沼幸子	15:00～16:30 一般演題8 「就労支援②」座長:長谷川直美 6題	15:00～16:30 一般演題10 「健康管理」座長:林みづ穂 6題	15:00～16:30 一般演題14 「地域生活」座長:福地 成 6題	
			16:30～16:40 閉会式		

「デイケアにおける発達障害者支援」の研修会に参加して

私は現在デイケアには関わっていませんが、発達障害と思われる方と面接をする機会が時々あり、その度に、何を目当てとして支援するのか、本人の目指すところに近づくことができるのか、関われば関わるほど分からなくなっていました。今回田中先生の講演を聴き、関わり方のヒントをたくさんいただき貴重な時間を持つことができました。先生のお話は言葉が丁寧で聴きやすく、スライドも分かりやすく、自分の中でなんとなくぼやっていた発達障害というものが、どんなアンバランスなくみゆえに「生きづらさ」となって表面化してしまうのかが整理できました。こどもの時期に作られるころの土台で、コミュニケーション機能に関連した領域の積みあがりが少ないためバランスが崩れてしまうこと、また、発達障害は親の育て方やしつけの問題ではないと認識していましたが、親の養育態度が少なからず影響して、「障害」と「虐待」という相互が危険因子としてリンクしてしまう課題もあること、それをやらな

こころスペース奏 佐藤 妙 (精神保健福祉士)

いと気が済まないという行動決定要因が優位なこと等、なるほどそういうことだったのか、と思う話をたくさん聞くことができ、ストンと落ちていく感覚を覚えました。自己認知が十分でないまま失敗体験ばかり蓄積され、成人しても「自分のことが嫌い」になってしまう二次障害が起こり、自分が社会的な存在であるということが不安になってしまう(社交恐怖)のは、本当にご本人にとって辛いことと思います。

学び損なったものを学ぶ場としてデイケアをどう活用するのか。「あなたがいられる場所」があること、自分という木に根っこを生やしていくこと、他者との絆を作っていくこと。こどもの頃にできてしまったデコボコも、支援者がその障害の理解に努めデイケアというコミュニケーションを通して彼らの力を発揮できる場があれば、そこにデイケアでの可能性が広がるのではないかと思います。まずは彼らが長きに渡り抱えてきた辛さを受け止めることでしょうか。

日本デイケア学会 委員会活動報告

組織委員会の活動報告

組織委員長 古屋龍太

来年度は評議員選挙の年に当たります。前回の選挙(2007年)で、現行の選挙方法について、いくつか大きな課題が提起されました。①当選者本人の意向が不明のまま、地区によっては定員割れの危険もあること。②選挙時期について、当選者受諾の意思確認作業に大きなロスを生じること。③選挙資格について、現行選挙細則と理事会の暫定的解釈とに不整合を生じていること。④次点者の繰り上げ当選期日内の受諾確認が間に合わず、実際の就任も9ヶ月先であり欠員が生じ得ること、などです。これを受けて、現在組織委員会では理事会に素案を提出しながら、「評議員選挙細則」の改正を検討しています。仙台総会までには細部を詰め、提案させて頂きたいと考えています。次期選挙には、地区ごとの立候補制なども取り入れる予定です。会員の皆さんの積極的な参加をお願い致します。

広報委員会の活動紹介

広報委員長 松永宏子

広報委員会の主たる仕事は、毎年2回、デイケア学会ニュースレターを発行することである。最初のニュースレターは1997年3月に発行されており、2004年2月の第8号までは年1回であったが、2004年度から大体7月と3月の年2回発行している。

選挙後、広報委員会も新しい委員体制となり、編集会議でニュースレターの内容を検討。10数年前、デイケアがまだ数少なかった時代は、全国でどのようなデイケアが実践されているのかの紹介や、年次大会・学会の案内等を中心にニュースを送る形で進めてきた。しかし、デイケア急増の現在、実践内容の紹介よりも、プログラムの工夫や困っていることについての助言を掲載する方が有効ではないかということになった。会員からのご意見・感想・工夫を是非お寄せください。

研修委員会の活動報告

研修委員長 栗原 毅

デイケア学会研修委員会は、理事3名を含む6名で構成されています。委員長の私は心理職ですが、後の5名は医師とソーシャルワーカーで、男性4名、女性2名です。

研修会は前期から、ほぼ1年に1回のペースで行ってきました。テーマは「デイケアにおける『管理』を考える」「プログラムの活用」「他職種との連携」等でした。今年5月には「デイケアにおける発達障害者支援」というテーマで行い、約80名の参加がありました。

今期も、ほぼ1年に1回のペースで、なるべく多くの方に参加して頂けるように、大会開催地で大会の前後に研修会を行う予定です。充実した学びの場を提供したいと考えていますので、是非ご参加ください。

編集委員会の活動報告

編集委員長 浅野弘毅

編集委員会は、8名の編集委員（浅野弘毅、岩下覚、大沼幸子、荻澤健志、小野寺敦志、齋藤敏靖、西村良二、中野英子）と5名の査読委員（池田良一、松田ひろし、松永宏子、山中恵子、是恒正達（英文査読））で構成されています。

年2回発行されている学会誌「デイケア実践研究」の編集が主要な任務となっています。2号のうち1号は学術大会の報告、もう1号はその時々のトピックスを取り上げる特集号としています。年4回（うち1回は学会会期中）の編集会議を開き、投稿論文の査読と特集のテーマおよび執筆者の選定等を行っています。査読にあたっては複数の査読委員が目をとおり、出来るだけ掲載が可能になるように肌理の細かい指導を心がけております。学会員の皆様方の積極的な投稿をお待ちしております。

調査研究委員会の活動報告

調査研究委員長 佐々木裕光

調査研究担当に任命された時から、「デイケアの実態調査をしたい。」との理事長の意向があり、まずは、全国のデイケア施設名簿を作ろうということになりました。その方法が難しく、厚労省への表敬訪問の際にアドバイスをもらいましたが、地道に各県の会員から情報を得るしかないとの結論に至りました。事務局の方に動いてもらう方向にはなりましたが、実際には大変な労力かと思われます。さらに、学会名簿自体が出来ておらず、使える予算も厳しいことが分かりました。

そこで、方法としては、学会誌を送る時にアンケート用紙を同封するとか、学会会期中に会議を開くしかないと思っています。

内容については、委員の先生方に何の発信も来ていないことをお詫びすると共に、病院と診療所のデイケア、デイケアと機能が重なる福祉施設の役割について実態調査をしたい気持ちだけを書かせていただきます。

日本デイケア学会役員

理事長：窪田 彰

副理事長：浅野弘毅、松永宏子

理事：荒田 寛、池淵恵美、榎本 稔、柏木 昭、栗原 毅、佐々木裕光、澤 温、関 健、高江洲義英、竹中秀彦、谷山純子、直江裕之、西村良二、野中 猛、原 敬造、福島正人、古屋龍太

監事：齋藤和子、弘末明良

事務局長：小野寺敦志

評議員(地区別、五十音順)：

北海道・東北地区●浅野弘毅(DR)、下出道弘(DR)、直江裕之(DR)、中野英子(PSW)、原 敬造(DR)

関東地区●浅井邦彦(DR)、池淵恵美(DR)、榎本 稔(DR)、柏木 昭(PSW)、窪田 彰(DR)、

栗原 毅(心理)、佐藤 妙(PSW)、野中 猛(DR)、古屋龍太(PSW)、松永宏子(PSW)

中部地区●竹中秀彦(PSW)、福与秀文(PSW)

北陸・信越地区●岩尾 貢(SW)、小田良光(PSW)、関 健(DR)

近畿地区●荒田 寛(PSW)、出田俊三(心理)、澤 温(DR)、福島正人(DR)

中国・四国地区●大森文太郎(DR)、谷山純子(DR)、津尾儀典(DR)

九州地区●河野耕三(DR)、佐々木裕光(DR)、高江洲義英(DR)、西村良二(DR)

委員会

組織委員会委員長：古屋龍太

委員：榎本 稔、竹中秀彦、津尾佳典、野中 猛、弘末明良

広報委員会委員長：松永宏子

委員：小谷野博、坂田直之、下出道弘、丹野きみ子、福与秀文

研修委員会委員長：栗原 毅

委員：井上牧子、福島正人、荒田 寛、佐藤 妙、岩尾 貢

編集委員会委員長：浅野弘毅

委員：岩下 覚、大沼幸子、荻澤健志、小野寺敦志、齋藤敏靖、西村良二、中野英子

査読：池田良一、松田ひろし、松永宏子、山中恵子、是恒正達(英文)

調査研究委員会委員長：佐々木裕光

委員：河野耕三、澤 温、関 健、直江裕之、原 敬造

日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約1,000名の会員がおり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 入会申込書、入会案内、会則、および郵便振込用紙をお送りいたしますので、下記事務局までご連絡ください。
2. 入会金および年会費
 正会員：入会金 1,000円 + 年会費 8,000円
 団体会員：3名までは、入会金 5,000円 + 年会費 20,000円（登録者名の変更は適宜可能）
 （3名を越えるときは、1名につき年会費 5,000円を加算してください）
3. 資格（会則の一部を引用します）
 正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。
 団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。
4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F (有)エム・シー・ミュージズ内
 日本デイケア学会事務局
 TEL&FAX：03-3813-6368
 E-mail：info@daycare.gr.jp URL：http://www.daycare.gr.jp

----- キリトリ線（ご記入いただき、郵送あるいはFAXで事務局までお送り下さい。） -----

入会申込書

申込日 平成 年 月 日

(正会員用)

氏名		性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日
職種		所属先名称 (勤務先)						
所属先所在地	〒			電話番号	()			

(団体会員用)

団体名		代表者						
所在地	〒							
種別		TEL	()			FAX	()	

デイケア従事者(計 名) ※デイケア従事者より会員登録となります。

氏名	フリガナ	氏名	フリガナ
氏名	フリガナ	氏名	フリガナ